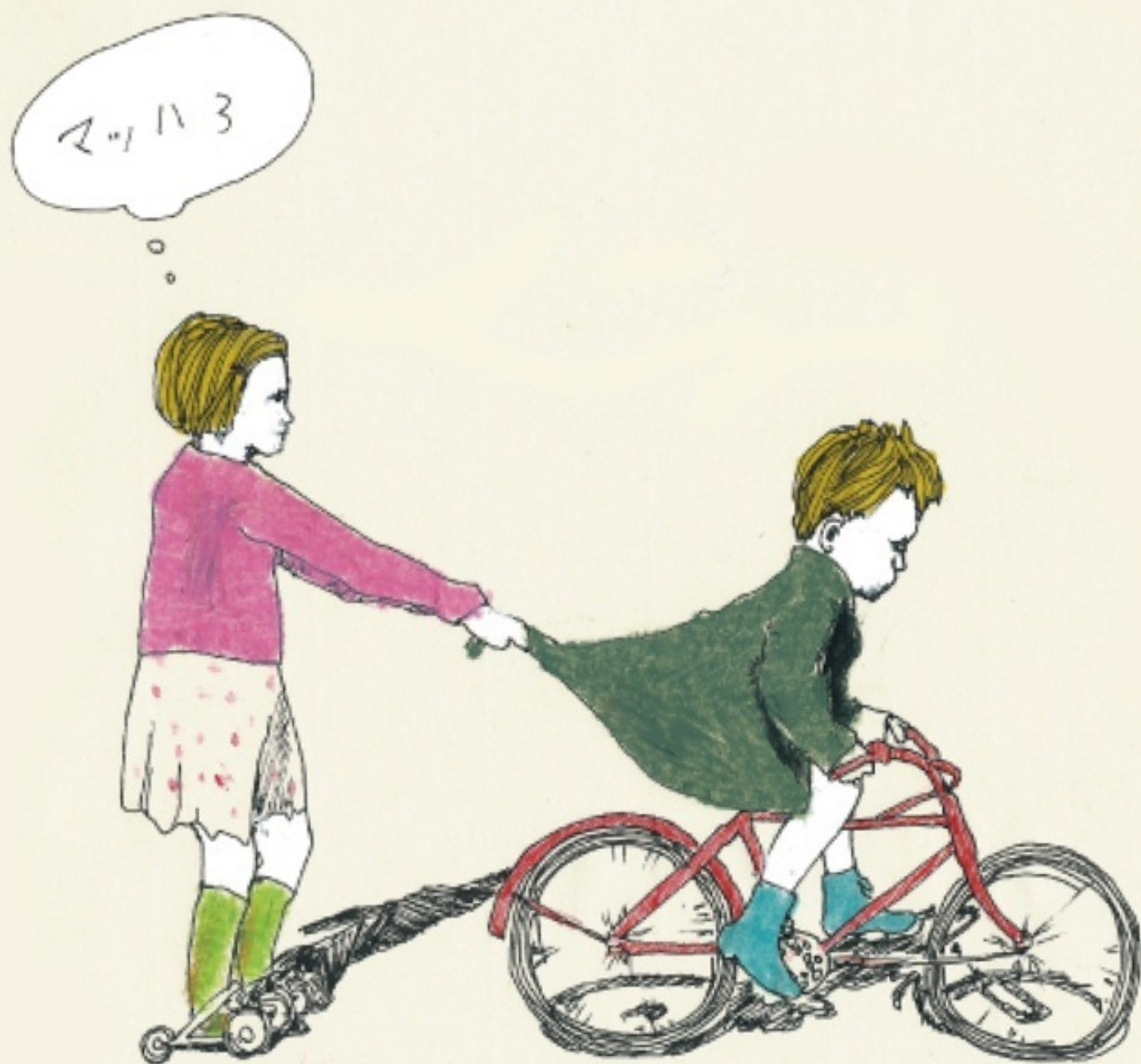


ギルバート  
GIRBERT

---

Vol. 1

学校むかたはすが  
ケハツク州で迷子なるの章





チュンチュン。

秋の日差しが眩しい。。いてて、いてて、痛い。

なんと、ぼくの自慢のもみ上げが2、3本抜けているじゃあないか。

気づくとそこには、ぼくを亡き両親のかわりに面倒をみてくれるマーレー叔母さん(46)がいた

。

「ハヤク メシクッテ ガッコイキナサイヨ」

テキサスなまりが素敵だ。

ぼくはコーンフレークと果物をさっと食べて学校にむかった。

マーレー叔母さんは朝からカツ丼を食べてたけど、とてもそんな気にはなれない。

学校までは自転車で30分。友達は電車で行けばいいじゃんと言うけれど、鶴川の駅までで15分もかかってしまう。(そこからニューヨークまで13時間)

おっと、もう8時だ！ 急がないと。

きょう、木曜日の遅刻担当は体育科のゴンザレス先生だ。

大きな声では言えないけど前科持ちだ。地元シカゴでは相当ならしたらしい。

しばらく行くと、まえにクラスメートのフランクリン・シュクリニコフ・ヴェルベーツというロシア人が歩いていた。呼びにくいからいつもケンって呼んでる。

ぼくは自転車を降りて一緒に行くことにした。

ケンが話しかけてきた。

「イヨッス、宿題できたと？」

旧ソ連なまりがなかなかいけてる。

もうしばらく行くと、今度はミカ・ハイネケン・ロピスというドイツ人の女の子が歩いていた。

彼女は東ドイツから通っていると言う。

どうやら、この子はあまりニュースに関心がないらしい。（ドイツは一つに統一されたんだよ？）

と、ここでケンが突然変なことを言い出した。

「ここどこ？」

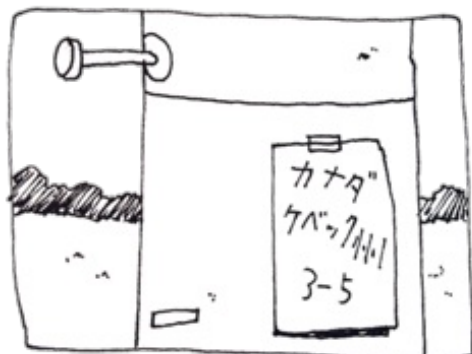
そういえば、もう8時間以上も何も考えないで歩いてた。（500m/secで）

不安になったぼくは近くの電柱を調べてみた。すると、カナダ国ケベック州3丁目5番地と描かれてた。

軽く衝撃的だった。おかげで少し気管につばが詰まってしまった。ゲホゲホ。

「ここカナダなの？ オーロラを見に行きましょう！」とミカ。

やっぱりこの子は少しぬけてると思う。



ここでケンが、「みんなおなか減らんと？」例の旧ソ連なまりで聞く。

時計を見てみると、もう夕方の4時半だ。そういえばおなかがペコペコだった。

そこで、みんなでお金を出しあうことにした。

ぼくが靴を買うために持ってきたのを併せて54ドル43セント、

ミカが今月の給食費を併せて40マルク、

そしてケンが3ユーロ。ケンは来る途中に追い剥ぎに遭ったから、と強がりを言っていた。



みんなのお金を併せてみてもわけが分からなかった。

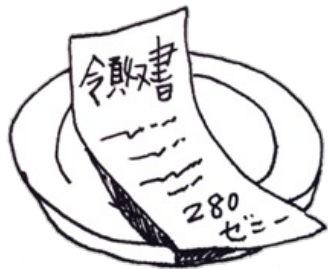
そこでとりあえず円に直してみたら、だいたい1万円くらいあることが分かった。  
これなら何日かはもつだろう。

とりあえずみんなおなかペコペコなので、  
なぜかケンがもってた傘を倒してその先が指したお店に入ることにした。

入ってみるとなかなかよい感じのお店だった。  
タキシードを着た人が席まで案内してくれ、椅子を引いて座らせてくれた。  
ケンがビーダマを渡してる。チップのつもりらしい。  
メニューをみて注文するとすぐに料理が出てきた。しかもこれがまた美味しかった。  
ケンは粘ついた豆と2本の棒で悪戦苦闘してる。ワシヨクというものを頼んだらしい。

みんなそれなりに満足してくつろいでいると、ウェイトレスが伝票を置きに来た。その伝票を見てミカが悲鳴をあげた。「800ドルですってえ!？」

えっ! それじゃあボッタクリじゃないか、と伝票を見てみると『280ゼニー』と書かれてる。  
彼女は何を見てたんだろう。



ゼニー。ド○ゴンボールの通貨だ。

たまたまそのお店に居合わせた緑色の肌の人と目が三つの人が、1ゼニーは5円くらいだと教えてくれた。(ほかに、背中に亀という文字の書いてある服を着てる人たちもいた)

それなら何とか払える。いや、むしろ安いくらいだ。

ケンの方を見てみると、彼は靴紐を結んで逃げる準備をしていた。

逃げなくても大丈夫だよと教えてあげると、ぼくは几帳面なんだとか何とか言っていた。

お腹もいっぱいになったし、これからどうしようかという話になった。

そう、ぼくらは迷子なのだ。

そこで、ぼくが「交番へ行こう」という画期的なアイデアを出すと、ミカは快く賛成してくれた。

ケンは「公営機関はちょっと…」と渋っていた。(もはやなまりを忘れてる)

いつも思うけど、彼はなぞだ。

ケンの意見を制して交番へ行くと、ぜんぶうまくいった。

ぼくはサンフランシスコのマーレーおばさんの元に帰れたし、ミカも無事自称東ドイツに帰れたし、ケンは警官に何か2、3聞かれたあとロシアに帰れたらしいし。



学校はサボってしまったけど、こんな道草もあっていいと思う。

家に帰ってみると、マーレー叔母さんが「キョウ ガッコカラ デンワアタヨ」とテキサスなまり。

え、学校をサボタージュしたことか？ と、ちょっとドッキリしたけど、「アンタ コンゲツノキュシヨクヒ ハラテナイデシヨ」とテキサスなまり。

ホツとした。

ホツとしたら足の裏が痛くなりはじめた。

そうだ、靴を買う予定だったんだ。明日もまた裸足かあ。。

今日は足の裏にオロナインを塗って、あたたかくして寝よう。

おっと、そのまえにケンとミカにメールを送るんだった。

ミカへ

きょうはカナダでオーロラが見られなくて残念だったね、こんど機会があったらベルリンの壁のかけらを持ってきてください。6パーツで買いとります。

ケンへ

きょうは警察官に何を聞かれたのですか？ 言いたくないのならそれはそれでかまいません。人には言いたくないことの1つや2つあるものです。そして、こんど旧ソ連なまりを教えてください。あ、教えてくれんと？ だったっけ？

きっと、返事は返ってこないだろう。ふたりはメールというものを知らないんだ。

でも、それはそれでいいと思う。

明日は、何だかんだでみんなから集めたお金で携帯電話を買ってしまったことを謝ろう。

ケンとミカは友達だ、きっと分かってくれるさ！

じゃあ電気消すね。おやすみ。

